



なにやら難しそうな報告書の気がする……。

いえいえそんな事はありません。ただ、県内の先生方が頑張っている姿を紹介するだけです。

東京大学高齢社会研究機構では、柏市医師会・柏市・千葉県等と共同して、充実した在宅医療・ケアを広めるために多職種参加型ワークショップを開催しています。東京大学柏キャンパスにおいて約3時間半の講義とグループワーク・実習を組み合わせた最新のプログラム。全体としては6回。在宅医療・ケアの知識や技術の習得とともに、地域におけるチームビルディングの構築も学べる貴重な機会であります。

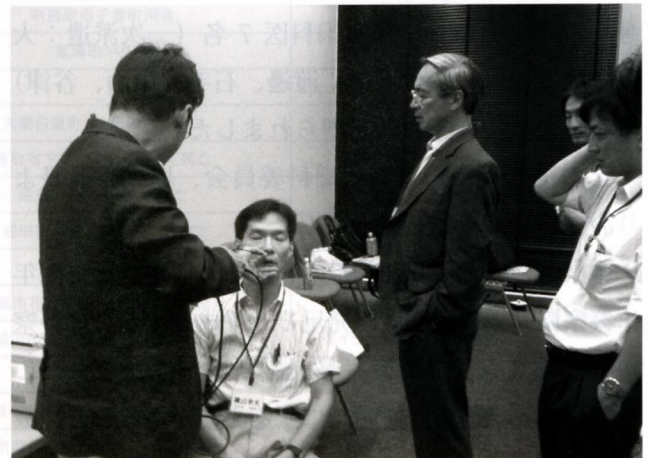
しかし欠席は許されません。みんな真剣です。この研修の魅力は、「実践に即した講義」が聞ける事。講義～というと理論ばかりが先行して、後悔するこ

とも多い中で、さすが訪問診療のプロ達の話は、すぐに役立ちそうです。在宅診療に多職種連携は欠かせません。そこで、患者の各症例を少人数グループに分かれてディスカッション、発表するという時間が設けられています。歯科医として、栄養や認知症の薬剤の知識の乏しさを痛感させられる瞬間ですが、プライドを捨てて謙虚に指導していただかないと向上は出来ないのであります。

柏歯科医師会の地域医療担当理事の金剛寺先生と委員である横山先生がワークショップに参加されています。先日は、大石歯科医院の大石善也先生が講師として嚥下に関する講義と演習をしました。

実習は「嚥下評価」です。1名がリクライニング姿勢頸部前屈で目をつぶり、患者役となり、2人一組でプリンを塗布して摂食意欲確認。ポカリによる水飲みテスト。唾液嚥下の触診。フードテストの評価。聴診器などを使って医科の先生を含めた各職種の方が楽しそうに行っていたのが印象的です。

最後に柏の金剛寺先生が術者、横山先生が患者役となり、VEを使っでの食塊形成を披露。朝から少し緊張していた先生方も、練習の成果あって、とてもうまく実演できました。めでたしめでたし。





柏歯科医師会は9月7日(水)にも「認知症の食を支える基礎知識」という市民公開講座を開催します。また、歯科医師会は柏市医療公社医療センター・特殊歯科診療所の支援協力もしています。がんばっているんだなあ～。柏は～。



高齢化が進む千葉県。生きることは食べること～を合い言葉に、歯科医師も郡市の枠を越えて協力し、高齢者を支えるあたたかい医療を展開していきたい。